

フォースマスター600



Force Master 600

spec◆ギア比=6.5。最大ドラグ力=10kg。自重=490g。糸巻き量PE=2号300m、3号200m。最大巻上長67cm/ハンドル1回転。ベアリング数=BB8。実用巻上持久力=6kg。最大巻上速度(分)=195m。実用巻上速度(分)148m(1kg負荷)、130m(3kg負荷)。本体価格9万5200円。5月発売予定

【探見丸スクリーン】

●すべての探見丸搭載船で使用できる探見丸スクリーンを装備。リールのモニターにカラー魚探が表示され、海底水深、海底形状、群れの大きさや魚体長(アキュフィッシュ)などが表示される(※アキュフィッシュ機能は、アキュフィッシュ対応の親機搭載船のみ使用可能)。



【MUTEKI MOTOR+】

●高温時においても安定したハイパワーとハイスピードを発揮するMUTEKI MOTOR+を搭載。



【NEW フォールレバー】

●内部にワンウェイローラーベアリングを搭載しブレーキをかけた状態でもハンドル回転やモーター巻き上げに干渉しないNEW フォールレバーを搭載。オモリ80号相当に対応しフォールスピードを制御する。



▶マダイらしき反応が出ると竿を垂直に下げて落とし込む



【タッチドライブスピードロック&フッキングモード&中間速2段階設定】

●「タッチドライブスピードロック」は自動車のアクセルのように押しているときは加速、離すと減速し、「フッキングモード」は静止やさそい速からワンタッチで最高速まで瞬時に加速する機能。またワンタッチで設定した速度で巻き上げられる中間速は「さそい速」と「ファイト速」の2段階に設定できる。



▲探見丸スクリーン画面の下方に映っているのがマダイ交じりの魚群の反応

TECHNOLOGYS OF S

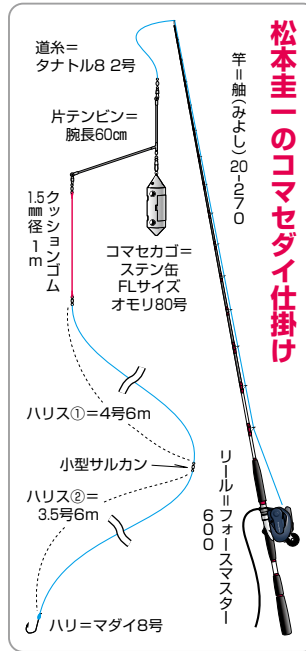
★バーミングしやすいSコンパクトボディが手巻きリールに引けを取らない操作性を実現

最新シマノテクノロジーの実証
テクノロジー・オブ・エス vol.87

探見丸スクリーンで 宙層に浮いたマダイを攻略 フォースマスター600

●5月にモデルチェンジして新発売される予定の「フォースマスター600」。タッチドライブスピードロックやフォールレバー、モニター画面には探見丸スクリーンを装備。そのハイスpekな性能と実力をコマセダイの名手・松本圭一が内房富浦沖のマダイで実証する。

★松本は探見丸スクリーンからの情報を元にこそというタイミングで誘って食わせる



松本圭一のコマセダイ仕掛け

地形の変化や魚群などの反応を手元で視認できるので、誘いをかけるタイミングをイメージしやすいんです。狙いどおりに食ったときは最高ですよ」

「食いが一段落すると水深60〜70メートル前後で移動を繰り返して、エサ取りの多い流しが続いたが、松本は約2分間隔の早いペースで手返しを行い400グラムと600グラム級を追加。

「新機能のタッチドライブスピードロックやフォールレバーなどで操作性もアップしました」

「タッチドライブスピードロックはワンタッチで狙ったスピードで瞬時に巻き上げることができ、離すと中間速に戻る機能。松本はコマセダイでは、スピードロックをオートにし、中間速の「さそい速」と「ファイト速」はオフにして、自動車のアクセルのようにタッチドライブを押しただけで加速し、離すと巻き上げがストップする設定にしている。これで竿を持ち上げた分だけ

「底から10〜15メートル上までマダイっぽい浮いた反応も見られたので、乗っ込みが本格化するのには時間の問題。4月が楽しみです」と言いながら、松本は満足げにタックルをしまった。

「ククンと竿先が震え、竿を持ち上げるとグイッと曲がった。」「コマセをまいてタナに合わせてるときも、ポンピングと同じ要領なので慣れると楽ですよ」

「また、ポンピングが苦手な人は、中間速の「ファイト速」を10前後にして、あらかじめドラグを緩めに調節し、竿を斜め上に構えて一定の速度で巻き上げながらヤリトリするとバラシを軽減できるとアドバイスする。

「フォールレバーの使い方は色々ありますが、僕は仕掛けを投入するとき軽く入れてバックラッシュを防止しています」

「当日は大ダイこそ顔を見せなかったものの、松本は0.4〜1キロを5枚釣り上げ12時半に沖場がりを迎えた。

「底から10〜15メートル上までマダイっぽい浮いた反応も見られたので、乗っ込みが本格化するのには時間の問題。4月が楽しみです」と言いながら、松本は満足げにタックルをしまった。

「竿一杯に誘い上げたところで食いました。今日は魚の活性が高そうですね」

「次投は70メートルまでピンを下ろし、2〜3回小刻みにコマセをまいた後、一気に指示ダナの65メートルまで巻き上げた。続いてスーッと竿を下げて落とし込み、ピタッと止めた途端に

「房総半島越しの美しい日の出を眺めながら富浦沖に到着。内房富浦港・共栄丸のミヨシで、水深88メートル、海面から65メートルの指示ダナでスタートした2投目で松本が掛けた。ポンピングを繰り返して慎重に海面に浮かせたのは1キロ級のマダイ。

「ククンと竿先が震え、竿を持ち上げるとグイッと曲がった。」「コマセをまいてタナに合わせてるときも、ポンピングと同じ要領なので慣れると楽ですよ」

「また、ポンピングが苦手な人は、中間速の「ファイト速」を10前後にして、あらかじめドラグを緩めに調節し、竿を斜め上に構えて一定の速度で巻き上げながらヤリトリするとバラシを軽減できるとアドバイスする。

「フォールレバーの使い方は色々ありますが、僕は仕掛けを投入するとき軽く入れてバックラッシュを防止しています」

「当日は大ダイこそ顔を見せなかったものの、松本は0.4〜1キロを5枚釣り上げ12時半に沖場がりを迎えた。



★当日は1キロ級を頭に5枚を釣りがすがの竿頭



▲竿を一定の角度に保ってヤリトリするとき、タッチドライブスピードロックをオート、ファイト速を10にセット



▲ハリ掛かりしたらタッチドライブをワンタッチ。ファイト速の10で巻き上げ開始

▼指を離しても一定の速度で巻き上がるため、ロット操作やドラグ調節に集中してヤリトリできるという

